

■全日本ベテランテニス選手権大会

滞在費

- 1) 試合出場の前日に宿泊する。翌日に試合がない場合は宿泊しない。
 - 2) 単価は一泊（食費込）12,000 円。
- とする。

出場者数を大会方式から計算すると、シングルス 523 人（男子 341 人+女子 182 人）、ダブルス 632 人（男子 344 人+女子 288 人）となる。一方、実際の参加者数は 928 人なので、 $523+632-928=227$ 人がシングルスとダブルス「かけもち」で出場していることになる。

トーナメント日程から上記 1) にしたがって宿泊数を計算すると、男子シングルス出場者 341 名の延べ宿泊数は 662 泊となる。1 人平均 2 泊弱ということである。「35 歳以上」から「70 歳以上」は年齢カテゴリーにおける出場者数は同じで、12 人（予選出場者） \times 1 泊+32 人（予選通過者 6 人+本戦からの出場者 26 人） \times 1 泊+16 人（2 回戦進出） \times 1 泊+8 人（3 回戦進出） \times 1 泊+4 人（準決勝進出） \times 1 泊+2 人（決勝進出） \times 1 泊の合計で、それぞれ 74 泊である。

「75 歳以上」は、10 人（予選出場者） \times 1 泊+16 人（予選通過者 5 人+1 回戦出場者 11 人） \times 1 泊+16 人（2 回戦進出 8 人+シード 8 人） \times 1 泊+8 人（3 回戦進出） \times 1 泊+4 人（準決勝進出） \times 1 泊+2 人（決勝進出） \times 1 泊の合計で 56 泊、「80 歳以上」は予選がなく、本選出場者 8 人の宿泊数は上記に倣い 14 泊となる。

同様に、女子シングルス出場者は 182 人、延べ宿泊数は 350 泊で、年齢カテゴリー別の宿泊数は男子シングルス「75 歳以上」と「80 歳以上」と同じである。

男子ダブルス出場者は 344 人、延べ宿泊数は 648 泊、女子ダブルス出場者が 288 人、延べ宿泊数は 544 泊となる。

それぞれの年齢カテゴリーの宿泊数を計算する際に留意すべきは、最も出場者の多いカテゴリーで 2 回戦から出場する 8 組 16 人がいる点で、計算は 32 人（1 回戦） \times 1 泊+32 人（2 回戦進出 16 人+シード 16 人） \times 1 泊+8 人（準決勝進出） \times 1 泊+4 人（決勝進出） \times 1 泊の合計 92 泊となる。

また、ダブルス出場者 632 人のうち 227 人はシングルス出場とかけもちで、かつ同じ年齢カテゴリーのシングルスとダブルスは開催期間が同じであるので、ここでは、「かけもち」の選手の宿泊を除外している。

式としては

ダブルスだけの出場者の延べ宿泊数 : a

ダブルス総出場者数 : b

ダブルスかけもち出場者数 : c

ダブルス延べ宿泊数（かけもち出場者分ダブルカウント込）：d

として、

$$a = d \times c / b$$

$$= (\text{男子 } 648 \text{ 泊} + \text{女子 } 544 \text{ 泊}) \times 227 \text{ 人} \div (\text{男子 } 344 \text{ 人} + \text{女子 } 288 \text{ 人})$$

$$= 428 \text{ 泊}$$

である。

実際には、シングルスで早々と敗退して 2 日後からダブルスが始まるという人もいるかもしれない。この場合、実際の延べ宿泊数は上の式で計算されるものより多くなる。

つまり確実に誤差があるのだが、本研究の目的は「実態に近い数字を示すこと」なのでこの計算式を採用する。

移動費

1) 出発地は県庁所在地の駅とする。沖縄県については、那覇空港とする。また、兵庫県（元町駅）、福岡県（博多駅）、鹿児島県（鹿児島中央駅）は、県庁所在地の名と出発する駅名が異なる。

2) 航空機の使用については、

- ・陸路では名古屋駅まで 5 時間 30 分以上かかる
- ・空路利用の方が陸路より 2 時間以上早い

のいずれかを満たす場合に選択するものとする。該当するのは、北海道、青森県、秋田県、宮崎県、沖縄県の 5 道県である。

3) 経路にバスを含めるのは、以下の場合である。

- ・出発地が徳島県の場合、鉄道より時間短縮が見込めるため徳島駅から高速バス可
- ・出発する駅から最寄りの空港までのバス（札幌駅から新千歳空港など）

他の高速路線バスは使用しないものとする。

4) 片道 100km を超える場合は、有料特急の料金を適用する。

5) 特急は新幹線を含め指定席料金を計算する。

6) 鉄道、航空機ともに往復割引を利用しない。

これらを条件に運賃検索サイト「ジョルダン」を使用し、1) の出発地から JR 名古屋駅までの料金を算出した。

これに、名古屋駅から市営地下鉄「八事日赤」駅を経由し、市バス「東山公園テニスセンター」停留所で降車するルートにかかる運賃 460 円（地下鉄 260 円、バス 200 円）を加算する。

なお、運賃は研究時の 2014 年 3 月 14 日午後 3 時に競技会場の最寄り停留所へ到着するものを統一条件とし、複数の路線がある場合には、最も出発時刻が遅いものを選んだ。